

α-グルコシダーゼ阻害剤 清水さくら病院院内フォーミュラー ※1

		第一選択 ※2	第二選択
医学的区分	糖尿病	ボグリボース OD 錠	ミグリトール OD 錠
	食後過血糖の改善		

※1参考ガイドライン：①糖尿病診療ガイドライン2019②CKD ステージ G3b～5診療ガイドライン2017③血液透析患者糖尿病治療ガイド2012④高齢者糖尿病診療ガイドライン2023 ※2第一選択薬とは薬効群中において临床上必要度が高い医薬品、第二選択薬とは第一選択薬で代替可能ではあるが当院における使用実績等を参考に使用する医薬品

2023年7月発行 2025年7月改訂

α-GI 概要

採用薬名	ボグリボース OD 錠「武田テバ」 (後発)		ミグリトールOD錠50mg「サワイ」 (後発)		【第一選択薬について】 各ガイドライン上、各薬剤間に大きな相違はないが、全ての経口血糖降下薬に対し追加可能である点や「2型糖尿病の発症抑制効果」の適応があり患者対応がしやすい点を考慮。また併用注意薬が少ない薬剤
一般名	ボグリボース		ミグリトール		
採用区分	院内・院外		院内・院外		
採用規格 薬価 (1 錠)	0. 2mg 10. 1円/錠	0. 3mg(同額) 10. 1円/錠	50mg 10. 6円/錠	75mg(院外) 14. 9円/錠	
用法	1 日3回毎食直前		1 日3回毎食直前		
用量	1 回0. 2mg から開始し効果不十分には0. 3mgまで使用可。高齢者は0. 1mgより開始する。		1 回50mg から開始、MAX 1 回75mg		【第二選択薬について】 各種ガイドラインの推奨度・安全性・経済性、及び HbA1c低下度はボグリボースと差がないと考えられるが、ボグリボースと比較して「2型糖尿病の発症抑制効果」がない点や併用可能薬がSU剤とビグアナイドに限られている点、及び透析患者(重度腎障害患者)には慎重注意である点を考慮。若干ではあるがボグリボースと比較し消化器症状の頻度が高い。
経管投与	可(OD錠のため簡易懸濁可能)		可(OD錠のため簡易懸濁可能)		
用量規定因子	0. 2mg 剤形のみ2型糖尿病の発症抑制効果		—		
腎機能による調整*3	吸収されにくいいため減量の必要はない		慎重投与だが腎機能正常者と同様でよい		

*3 腎機能別薬剤投与量 第4版 じほうより